

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3353-5151

担当者の所属・氏名 聖路加国際病院 脳神経外科 劉 美憬

【研究責任者】

聖路加国際病院 脳神経外科 岡田 芳和

当院の脳神経外科で手術を受けた方を対象とした MRI 対応らせん入り気管挿管チューブに関する研究

1.研究の対象

2018年4月から2022年3月までに当院脳神経外科で開頭手術、もしくは脊椎手術を受けた患者さんが対象となります。

2.研究の目的・方法

現在、MRIは全身の病変に対して最も有用かつ身体への負担が少ない診断方法です。特に脊髄を含む中枢神経領域では、MRIを用いた画像検査は必要不可欠です。中枢神経疾患の手術では、全身麻酔下で首を曲げる、伸ばすなどの体位固定が必要なため、人工呼吸に用いる気管挿管チューブの閉塞リスクがありえます。このような気道トラブルが予想される場合は、一般的なシリコン製の気管挿管チューブではなく、閉塞を起こしにくい金属で加工された気管挿管チューブの使用が推奨されています。一方で、この金属加工された気管挿管チューブは発熱などのトラブルを招く恐れがありMRI撮像ができないというデメリットがあります。我々は、MRI撮影が可能な閉塞に強いチタン合金を用いた気管挿管チューブを開発しました（ファイコン、MRIラセン入気管内チューブ、富士システムズ株式会社）。本研究では、MRI撮影におけるチタン合金を用いた気管挿管チューブの有効性を評価することを目的とします。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）の画像記録に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2023年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、治療歴、診療画像、治療画像、副作用等の発生状況、カルテ番号 等